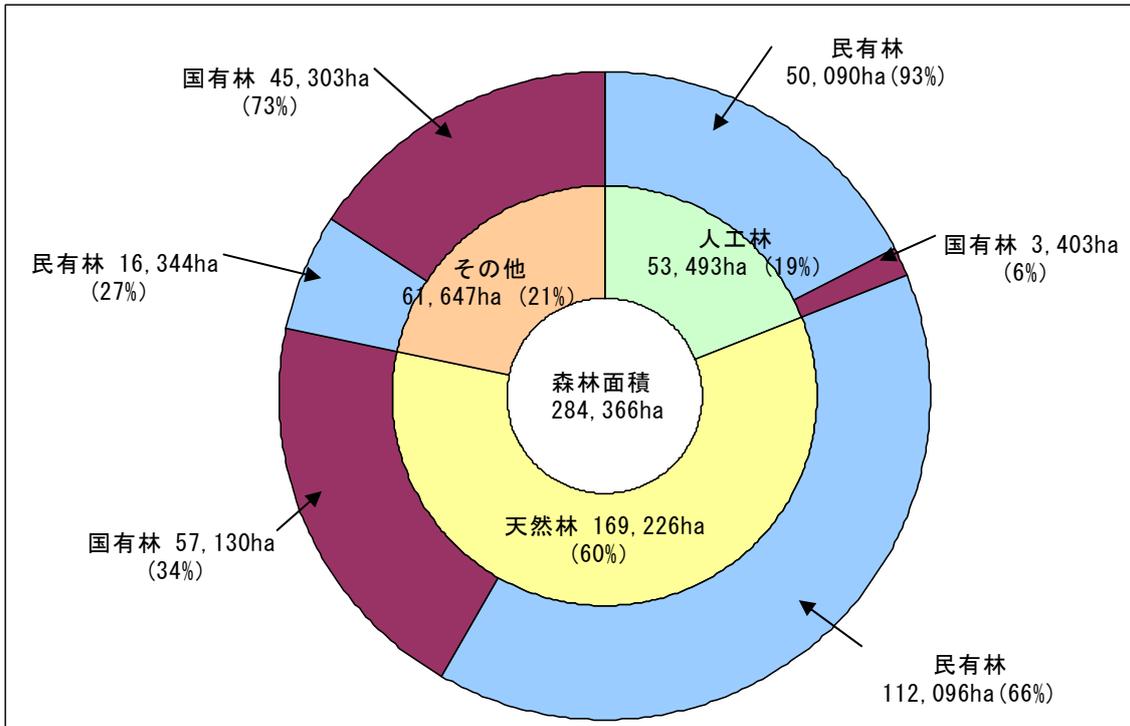


富山県の森林・林業の動向

1. 本県森林の現況（平成22年3月31日現在）

森林面積は県土面積の約67%で、そのうち天然林の割合は60%、人工林の割合は19%となっています。人工林比率は全国で上から46番目となっています（全国平均41%）。



【用語の解説】

国有林…国が所有する森林。

民有林…国有林以外をいい、個人、会社、社寺等が所有する私有林、都道府県、市町村、財産区等が所有する公有林に区分される。

(参考) 本県の森林計画区



森林計画区とは、農林水産大臣が、都道府県知事の意見を聴き、地勢その他の条件を勘案し、主として流域別に都道府県の区域を分けたもの。全国158計画区、県内2計画区。

神通川森林計画区

富山市、立山町、上市町、滑川市、魚津市、黒部市、入善町、朝日町

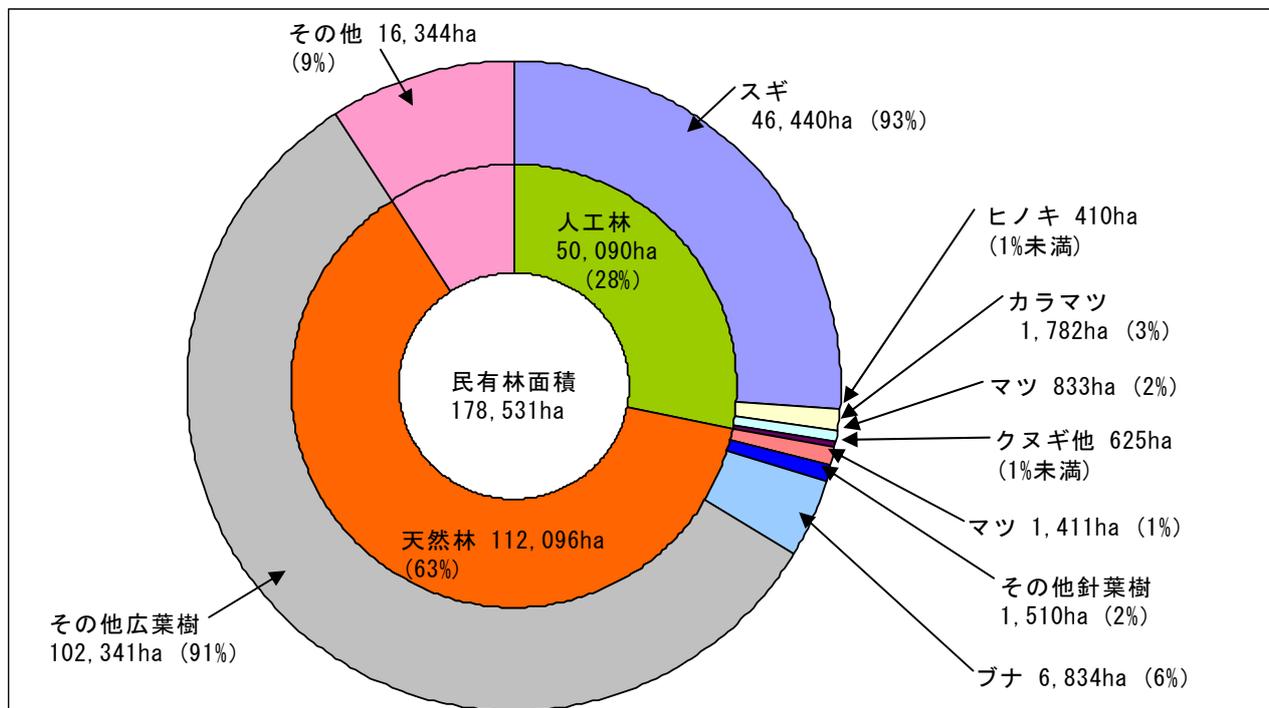
庄川森林計画区

氷見市、高岡市、射水市、小矢部市、砺波市、南砺市

2. 本県民有林の現況

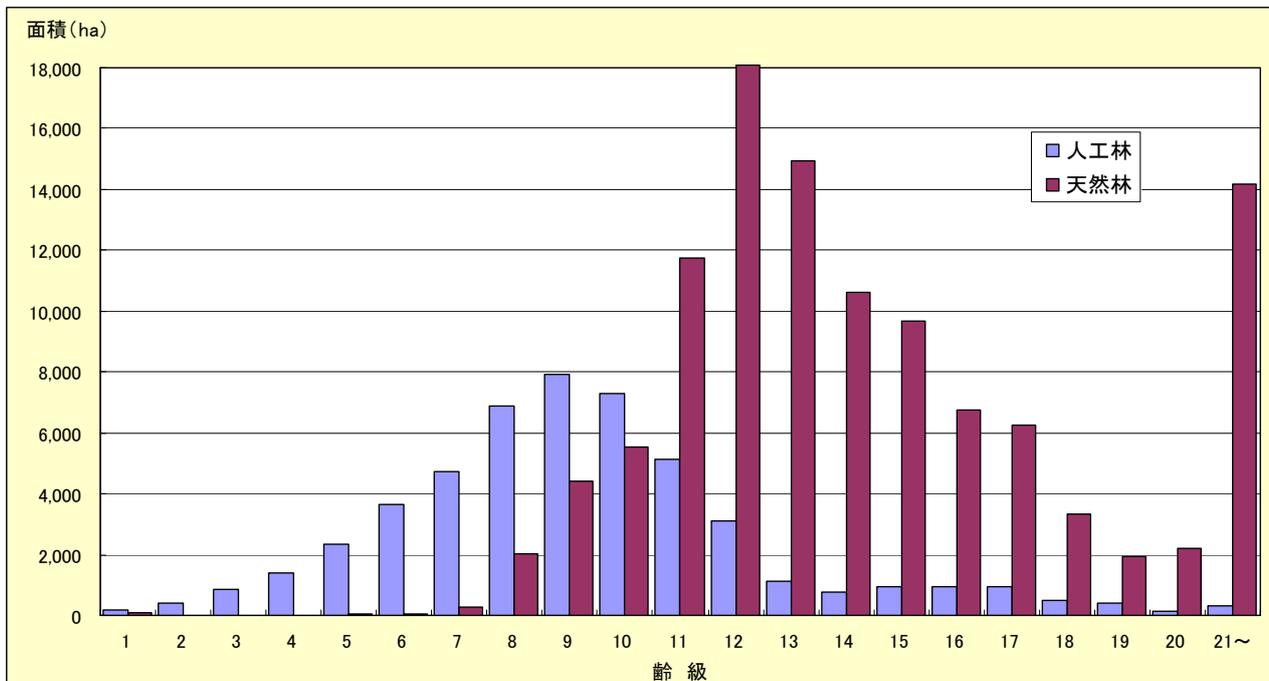
(1) 樹種別森林面積（平成22年3月31日現在）

人工林の93%はスギで占められています。



(2) 人工林・天然林別年齢別森林面積（平成22年3月31日現在）

9年齢を超える木材として利用可能な人工林面積は、約22千haで人工林全体の約43%を占めています。



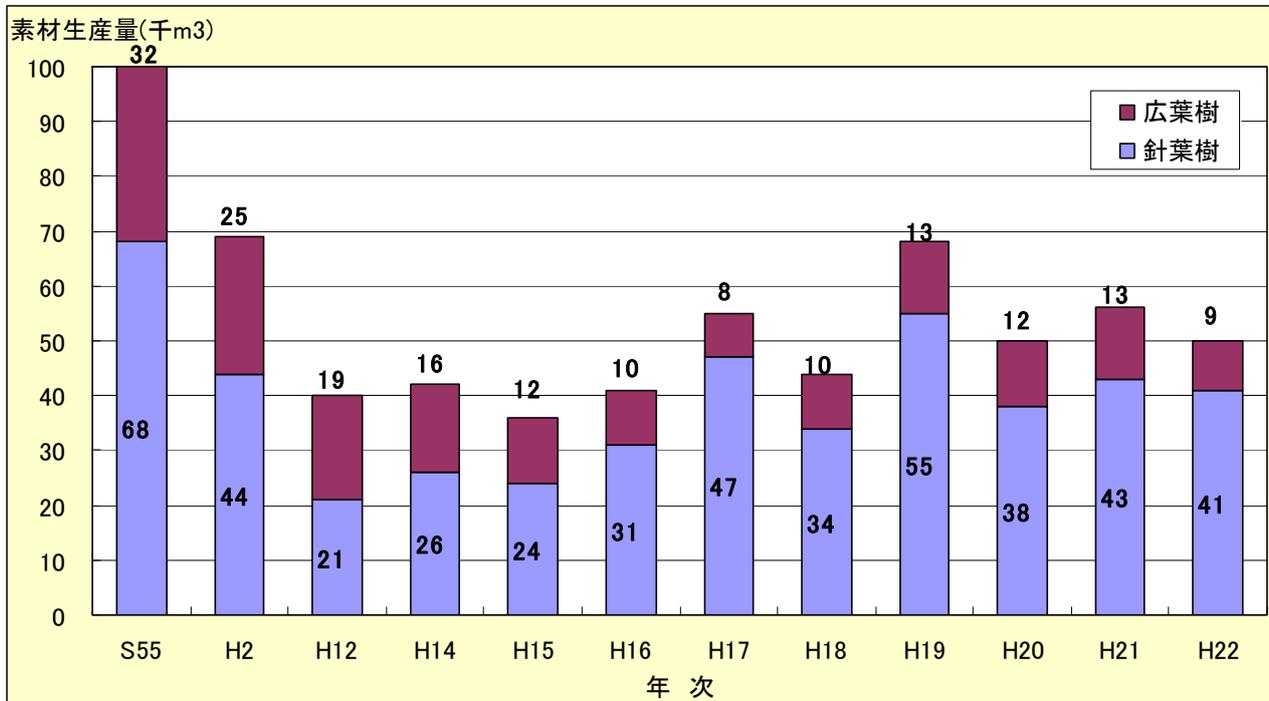
【用語の解説】

年齢級…森林の年齢を一定の幅でくくったもので、一般的に5年をひとくりにしている。例えば1～5年生は1年齢。人工林では苗木を植栽した年度を1年生とし、以後、2年生3年生と数える。

3. 本県の林業等の現況

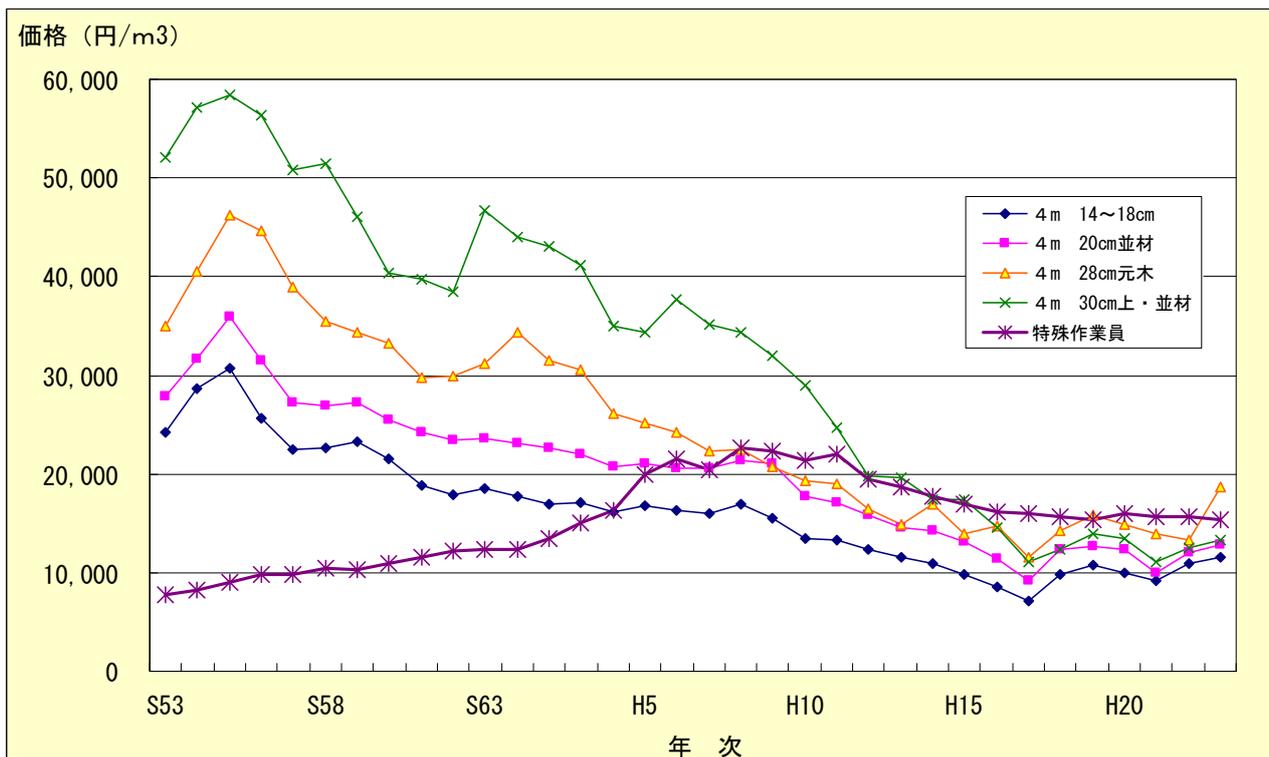
(1) 素材生産

昭和 55 年に 10 万 m³ あった生産量は年々減少し、平成 12 年以降は約 4 万 m³ で推移していましたが、近年は間伐材の搬出増に伴い増加傾向にあります。



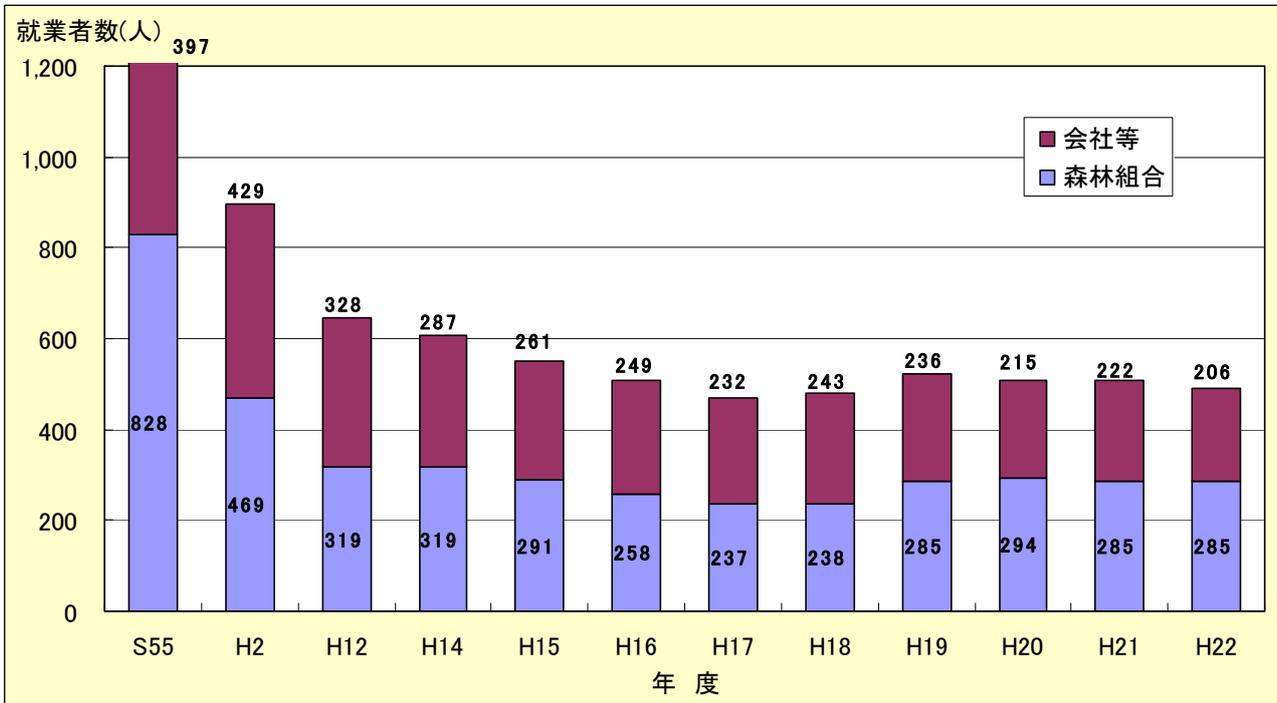
(2) 木材価格

昭和 55 年をピークとして木材価格は年々減少しています。平成 12 年以降は木材の規格（径級等）による価格差がなくなってきました。



(3) 林業就業者

林業就業者は年々減少していましたが、平成 16 年度以降は横ばいで推移しています。
 県内の森林組合の作業班員のうち、60 歳以上の高齢者が占める割合は減少 (H5:65.4%
 ⇒ H22:33.3%) しており若返りが図られています。



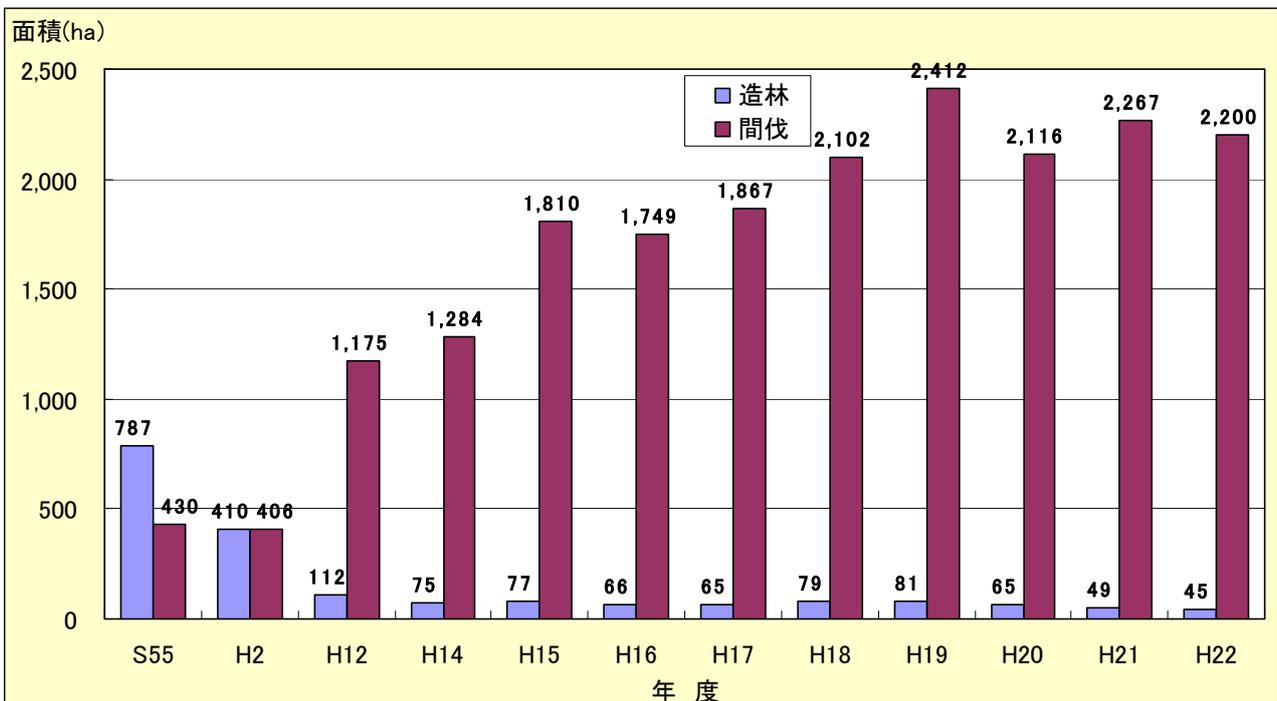
【用語の解説】

林業就業者…富山県では、年間就業日数が 30 日間を超える者を林業就業者として扱っている。

(4) 造林・間伐

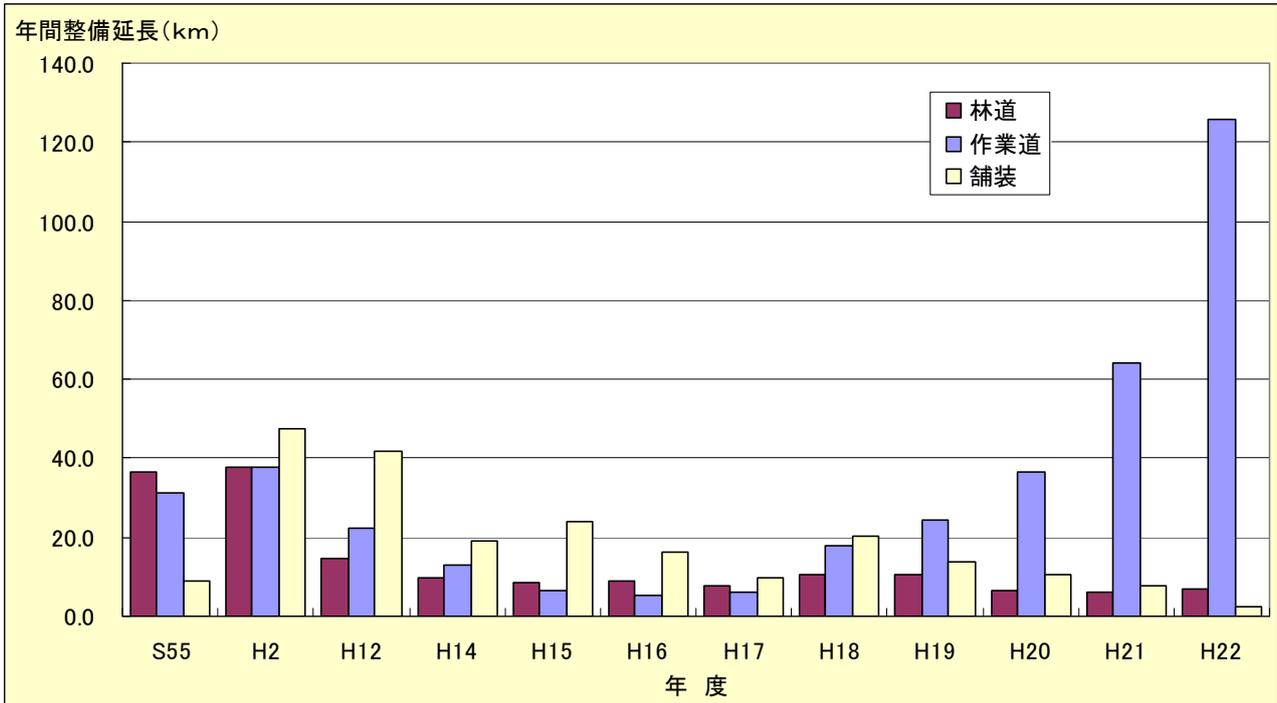
昭和 50 年代まで計画的に拡大造林が行われてきましたが、近年は、伐採後の再造林が主体となっています。

二酸化炭素の吸収源対策として、間伐を重点とした森林整備を推進しています。



(5) 林道

林道の開設延長は、年間 10km 程度で推移しており、林道密度は 8.9m/ha となっています。間伐材の搬出に必要な林内の作業道開設が年々増加しています



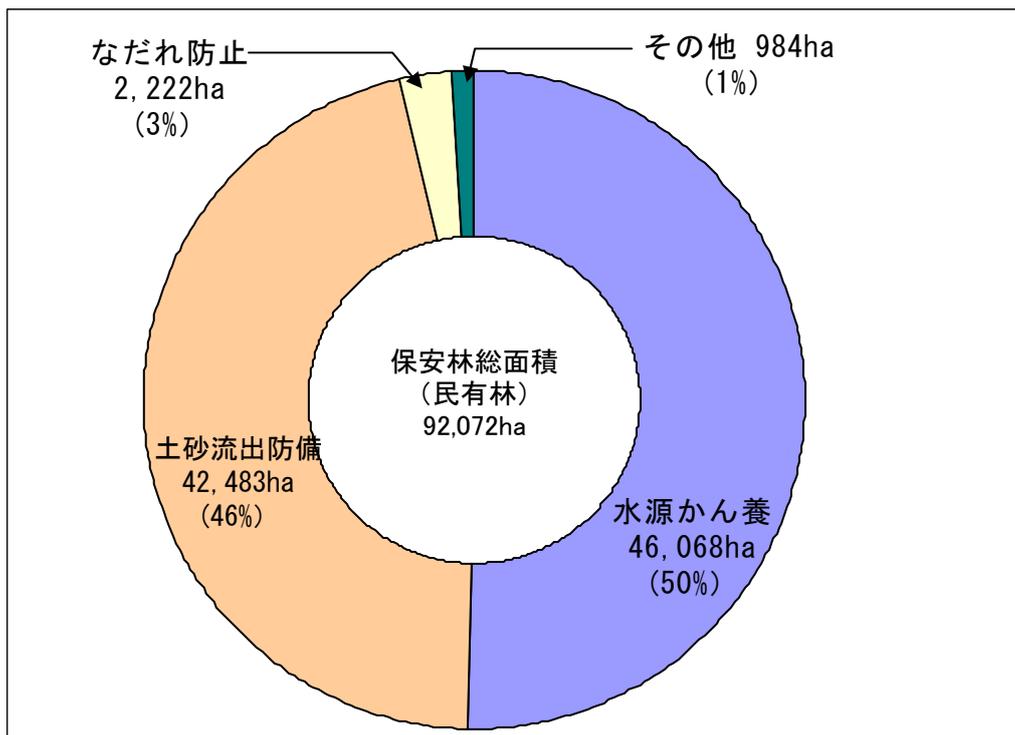
【用語の解説】

林道密度…私有林内の単位面積当たりの道路延長。

(6) 保安林（平成 23 年 3 月 31 日現在）

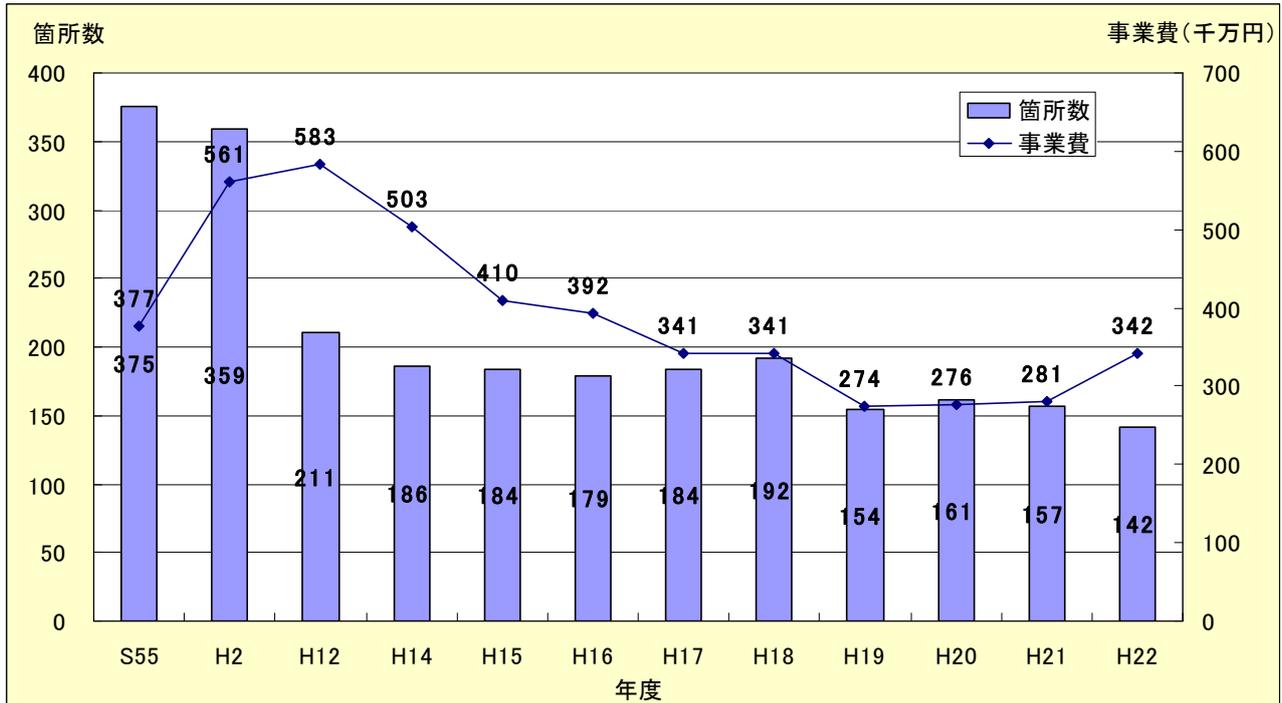
私有林内の保安林率は 51% と高く山梨県について全国第 2 位となっています。

国有林を含めた県内の保安林面積は 196,438ha で、保安林率は 69% と全国第 1 位です。



(7) 治山

箇所数は年々減少していますが、山地災害を未然に防ぐため、危険度の高い地区から優先して整備しています。



(8) 森林被害

松くい虫被害は、昭和 38 年の 7,200m³ をピークとして大幅に減少している。平成 16 年度以降 300~400m³ とピーク時の 5% の水準で推移しています。

カシノナガキクイムシ被害は、平成 14 年度に南砺市(旧福光町)で初めて確認されて以来、県下全域に被害が拡大しましたが、今年はその被害は散発的であり、大きく減少しました。

